

令和6年度第2学期終業式 校長式辞

感染症の拡大防止のため、今回は放送での終業式としました。

直接お話しできないのが残念ですが、2学期の締めくくりとして、今日は一つの寓話からお話します。

「生クリームに落ちた三匹のカエル」というお話です。もともとはイソップ童話にあったものです。

三匹のカエルが、生クリームのいっぱい入った壺からおいしそうなおいがするので、そのふちから中を覗き込んでいました。すると突然、三匹ともその壺の中に滑り落ちてしまいました。

そのうち一匹のカエルは、「ああ！もうだめだ！おしまいだ！どんなにもがいてもこの壺の中から出られないだろう」と考えて、もがくことをすぐにやめてしまいました。そして何もしないでじっとしたまま、やがて生クリームの中に沈んでしまいました。

残った二匹のカエルは、何とか助かろうと何度も何度も足を蹴り、一生懸命もがき続け、沈んでは浮き上がることを繰り返しました。

しかし、二匹目のカエルもとうとうこう考えます。「やっぱりもがいても無駄だ。きっとこのまま助からない。もう疲れた。こんな苦しい思いをするのはもうよそう。無駄な努力をした挙句、結局疲れきって助からないなんて割に合わない」そして、それ以上足を蹴るのをやめてしまいました。やがて二匹目のカエルも生クリームの中に沈んでいきました。

それでも三匹目のカエルは必死にもがきながらも考え続けていました。「どうしたらいいんだ。このまま頑張ってもどうにもならないかもしれない。苦しいだけで無駄かもしれない。でも、最後まで諦めたくない」そして、ひたすら足を動かして、同じ場所をかき回し続けました。

すると、足の下がだんだんと固まり始めました。足を蹴ってかき混ぜているうちに、生クリームがバターになったのです。三匹目のカエルは、その固まったバターを蹴って、壺の外に飛び出すことができました。

もちろん、「生クリームをかき混ぜてバターにするには、どれぐらいかき混ぜる必要があるんだ」とか、「そもそもそんなことで本当にバターができるのか？」とか、ツッコミどころはたくさんあるかも

しませんが、これはあくまで例え話として聞いてください。

では、この寓話は人に何を伝えたいのでしょうか？あなたたちはどう考えますか？

三匹目のカエルは「生クリームだからかき混ぜ続ければ固まる。そうすればここから脱出できる」ことを知っていて、ひたすらもがき続けたわけではありません。二匹目のカエルが考えたように、三匹目のカエルの行動は、ひょっとしたら「無駄な努力、不毛な努力」にすぎなかったのかもしれませんが。しかし、その努力は「壺から脱出する」という一つの結果を生んだのです。

この話が伝えようとするのは、「行動する人が結果を手にする」ということでしょう。実際、成功する人とそうでないの差は「紙一重」と言います。諦めずに行動し続けることが、「手に入れた結果を手にする」ということにつながるのです。

この話は、アルフレッド・アドラーというオーストリア出身の心理学者が好んで取り上げました。

アドラーは、「アドラー心理学」と呼ばれる、人の心と行動の問題を解決に導く、いわば「幸せに生きるための心理学」を唱えた人です。『嫌われる勇気』というベストセラーになった本のヒットをきっかけに、日本でも広く知られるようになりました。

アドラー心理学のキーワードは、「勇気」つまり「困難を克服する活力」です。アドラーの主張を一言でいえば、「自分で決定し、自分で行動する勇気を持つ。そうすれば自分を変えることができる。そして、人との関係も変えることができる」ということです。

何かの困難にぶつかったとき、行動する勇気を持つこと。そして、まずはやってみる。やってみてダメなら、人からアドバイスを受けてみる。自分では気付づかなかったこと、思い付かなかったことが分かるかも知れない。そして、諦めずにもう一度挑戦していく。

その繰り返しの中で、やり切ったという達成感があれば、成功しても、たとえ失敗したとしても、次のステップにつながります。そして、何よりもその努力したこと自体が人として成長していく糧となります。

人生は挑戦の連続です。挑戦する前から、「無理、できない」と考えたくなくなってしまうこともあるかもしれませんが、そんな時にこそ、あきらめて立ち止まるのではなく、「やってみよう、とにかく挑戦してみよう」と勇気をもって進んでいきたいものです。

これから受験を控えた三年生の皆さん。結果が見えず、不安を感じることもあるかと思いますが、最後まで諦めず、努力を続けてください。やがてあなたの足元の生クリームはバターに変わります。私はそう信じています。

一年生、二年生の皆さんも、勉強に、部活動にと、引き続き積極的に取り組んでいってください。

明日から冬休みです。そしてまもなく令和六年が終わります。これまでの自分の生活や活動を振り返ってみるにはいい機会です。「自分は挑戦しているか。できない理由ではなく、やれる理由を探しているか。そして、勇気をもって行動しているか。」

自分自身としっかりと向き合ってみてください。

そして、新しい年、小坂井高校にとっては創立 50 周年を迎える年、令和七年を迎えていきましょう。

充実した冬休みにしてください。

(後記) 終業式後、理科(生物)の先生が校長室に来てくれて、教えてくれました。動物性の生クリームは、かき混ぜると実際にバターになるそうです。牛乳を原料とする生クリームをペットボトルに入れて、シャカシャカ振ると10分くらいで固まってくるのでした。それに対し、植物性の生クリームは、どれだけ振っても固まらないそうです。おかげで勉強になりました。(校長)